寄 稿 文

ある夜の出来事（Unbelievable-night）

花 村　　修*・川 口　　稔**

第一夜　山内助手編

「うーん，ひじょーにまずい．安パイがない．対面は手が大きそうだし……，何を切っても当たりそうだ．ど……どうしよう．え・えいっ，ままよ…….」『ローン』『ヒエーッ』．

時は1976年晩秋の夜更け．ここは楽山にほど近いオンボロ学生下宿．いつものように地学教室の不良学生数人が「西（しゃー）ナイロビア」などの意味不明の卑猥言語を連発しながら，“実践中国語講座”を開いておりました．ただでさえ少ない仕送りを奪い合う姑息な闘いは，冷え込む夜とは逆に次第に白熱していました．『また振り込んでしもうた．今日はボロ負けだっ．嗚呼！』……とその時

知らせは何の前触れもなく，やってきました．M先輩（この方は当時6回生位の最年長学生で講座のメンバーであった）が顔を出し，『おーいお前達，どうも山内さんの車が大学の近くで脱輪したらしいから，ちょっと手伝え』．『えーっ，またか．しかし，よーやるな山ちゃんも』．当時，教室最年少の教官であった山内助手は，それまでにもバイクで土手から転げ落ちたり，S先輩の重い250 ccのバイクを急発進で持ち上げたりと，その driving technique は学生達の間に恐れられていたのでありました．そういうわけで講座の面々は特に驚くこともなく，真夜中の勉強会をいったん中断し，バイクに分乗して現場へと向かったのでした．ところが……

『えーこちら現場です．しかし，不思議なことに本人も脱輪した車もあたりに全く見当たりません．』とリポーターが言いそうなほどの静けさです．現場は，七類方面へ通じる国道から少し入った西川津の田んぼの中を走る一本道．街灯もない暗くて長い直線で，折しも稲刈りが終わり，昼間は見通し抜群の田園地帯です．到着した者たち，狐につままれたように辺りを見回していると，遠くから『おーい，M君よー』と呼ぶ声．声のする方向を皆で目を凝らして見ると，そこには田んぼの中に刻まれた真新しい二条の轍が闇の中にぼんやりと……．どうやらちょっとした脱輪ではないと気づいた面々は，『おいおい，ついに山ちゃんは道だけでは飽きたらず，田んぼの中まで暴走しとるぞ』などと，にやにやしながら轍の跡をぞろぞろと歩いていったのです．車は，田んぼの中をここまで走るかと言うくらい道からかなり離れた場所にぽつんと停まっていました．そして一同は近くまで寄ってみて，その車の様子に唖然としてしまいました．なんと，山内さんの愛車は正面のウィンドウから丸太で串刺しにされ，運転席もガラスの破片でめちゃめちゃです．しかしそれ以上に驚いたのは，そんな状態なのに怪我一つなく，見た目にも元気そうな山内さんの姿でした．当時，田んぼのあちこちには，刈り終わった稲を干すために丸太で柵が作ってありました．どうも山内さんは道路から脱輪し，田んぼの中を走り回ったあげく，柵に正面から激突して丸太まで車に乗せたのでした．そのあたりの状況を本人に問いただすと，平気な顔で『いやさー．国道曲がってからぶつかるまで全然記憶にないんだよねー．』と信じられない答え．この日は東京からお客さんが訪れ，松江市内でしたたかに飲んだあげくの帰宅途中で，完全な熟睡状態であったらしい．もしもあの時，丸太がちょっとでも横にずれていたら，今日めでたく退官を迎えることはなかったかもしれません．全くもって，不幸中の幸いと言うべきか，悪運が

* 花村技術士事務所　昭和53年卒
**福岡歯科大学　昭和53年卒

強いと言うべきか……．南無……．

ともかくその夜は，集まった一同で丸太だけはなんとか引き抜いたものの，車をどうすることもできませんでした．何でも明るくなってからレッカー車で片付けてもらったとのこと．その後，柵や稲の損害や轍のことで田んぼの持ち主に平謝りで補償をしたとか，教室主任の大久保さんや小林さんにはこってりと油を絞られたとか，後始末談が伝わっています．ただし，警察のお世話になったという話は聞いていません．

後日，この夜の山内さんの武勇伝が話題になると，飯泉さんは『やまっち（山内）君もよくやるよーっ，アッハハハ．それにしても，アッハハハ．一体なにやってたんだ．アッハハハ.』と大笑い．飯泉さんは，普段あまり必要のないこと以外は積極的にしゃべらない人ですが，コンパでこの話が出るたびに「まったく，やまっち（山内）君はアッハハハ．アッハハハ.」と，おかしくてたまらない様子でした．当の山内さんも「またその話か」という表情を最初見せるものの，そのうち結構喜んで再現シーンを解説し始める始末．いったい，反省しとるんかいな……．一方，その飯泉さんも……．

第二夜　飯泉講師編

さて，当時は一学年 10 名の少人数だったので，不良学生は生活費が乏しくなってくると，「やれ学外ゼミだ，勉強会だ」と称し，連れ立って教官宅へ押しかける良き習慣？がありました．奥様方にはとても迷惑なことだったとは（ほんの少しだけ）思いつつ，学食より格段にうまい家庭料理や高級アルコールを味わっては，夜が更けるまでワイワイガヤガヤやっていました．そんなある晩のことです．私たちは例によって飯泉さん宅へ押しかけ，栄養とガソリンの補給をしていたのですが，この夜は飯泉さんもアルコールが相当まわっていたようでした（もともと，酔っているのかどうかよくわからない人でしたが……）．かなり夜も更けた頃，奥様が飯泉さんに娘（香織さん，当時推定年齢 0 歳）が発熱していることを告げました．それを聞いた我々は「さぁ，そろそろ帰ろう」と腰を上げかけました．しかし飯泉さんは毅然として，「そんなもん，ほっときゃ直るよ」と取り返しのつかない一言を発したのでした．我々は，一瞬奥様の顔色が変わったことを見逃しませんでした．早々にその夜は退散しましたが，その後家庭内で何があったかについては，特に飯泉さんからの告白はありませんでした．たぶん，※♯♀♂……だったことは想像に難くありません．雰囲気的にいつものアッハハハでは済まなかったことでしょう．次の日，二日酔いのせいだけでなく，いつものパンダのような眼の周りの隈が一段と濃かったような気が……．

以上が若き飯泉さんと山内さんの“ある夜”のお話です．本人達にとっては，思い出したくもないことでしょうが，目撃した歴史の生き証人として書き残すことにしました．飯泉さん，山内さん，記憶に間違いがあれば，ごめんなさい．ところで山内さん，あの夜の中国語講座は途中で散会となり，私のボロ負けはすべてチャラになりました．ありがとうございました．また飯泉さん，あの時の毅然とした態度は，その後の我が家の家庭内運営に大きな教訓となっています．紙面を借りてお礼申し上げます（？）．

この他にも，若き日の飯泉さんや山内さんには色々と楽しい？エピソードが盛りだくさんです．授業に遊びにと色々とお世話になりました．いや，お世話したのかな……．特に中国語講座の面々は，山内さんに少ない生活費を容赦なくむしり取られことは一度や二度ではありません．山内さん，引っかけリーチは止めましょう．人間性が疑われます．それから飯泉さん，タバコのフィルターを噛むのは止めましょう．誰が吸ったかすぐわかります．

古き良き時代だったとはいえ，ペイペイの飯泉さんや山内さんがいた頃に学生時代を送れたことは私達にとっても忘れられない思い出です．こうやってお二人の退官記念の文章を綴っていると，地学教室での生活が我々のその後にいかに大きく影響したかが改めて実感できます．

飯泉さん，山内さん，もう退官とはとても思えませんが，長い間本当にご苦労様でした．今後もますますお元気でご活躍ください．これからもお二人の話を肴においしいお酒が飲めそうです．ありがとうございました．

地団研，日曜巡検の一こま（1976 年 6 月 13 日）．
左より，飯泉さん（話に無関心そうである），花村（26 期，不良学生），山内さん（あくびをしている），安達直隆氏（27 期，コンパの帰りに酔って見ず知らずの人の家に泊まり，朝ご飯をごちそうになったというとんでもない人物である），川口（26 期，不良学生），佐々木和彦氏（25 期，不良学生，文中の S 先輩．この時もバイクの話をしている）．各人の個性がよく出た一枚の写真である．